

農業技術

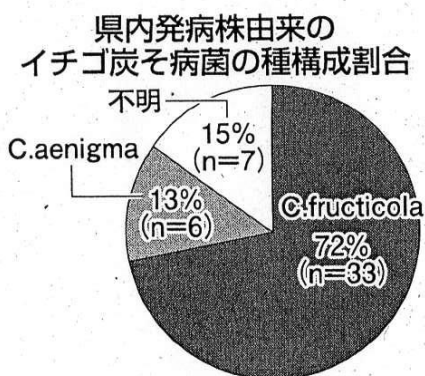
プリズム

イチゴ炭そ病は夏場の育苗期に多く発生し、イチゴ苗を萎凋（いちぢょう）枯死させる重要病害です。近年の研究により、本病の病原菌 *Colletotrichum gloeosporioides* (完全世代名 *Glomerella cingulata*) は、種が複数存在し、種により薬剤感受性や病原性が異なるといわれています。そこで、県内各地の発病株より分離したイチゴ炭そ病菌46菌株において、種の判別と薬剤感受性検定を行いました。

試験の結果、県内のイチゴ炭

そ病菌の優占種は *C. fructicola* 株 (*C. fructicola* 1 株、*C. aenigma* 9 株) はベノミル (商品名 *Benlate* 水和剤)、アゾキシストロビン (商品名 *Azoxystrobin* ター 20フロアブル) に感受性を示しました。県ではゲッター水和剤を基幹防除剤の一つにしていますが、ゲッター水和剤は2成分の混合剤であり、どちらの耐性菌でも防除効果が期待できません。

イチゴ炭そ病菌 県内の優占種は *C. fructicola*



(農林技術開発センター病害虫研究室主任 江頭桃子)